



沼田市観光基本計画 改訂版

— with コロナ時代の沼田市の観光 —

令和 5 年 3 月

「オール沼田の観光まちづくりへ」



本市におきましては、2017(平成29)年3月に観光施策の指針となる「沼田市観光基本計画」を策定し、東洋のナイアガラと称される吹割の滝、関東有数のブナ林のある玉原高原、昼夜の寒暖差が育む良質な農産物やフルーツなどの食、加えて老神温泉や望郷の湯、しゃくなげの湯などさまざまな良質の温泉などの観光資源を活用し、観光推進を図ってきたところであります。

この計画は「沼田市第六次総合計画」の“地域経済(ブランド力と交流による元気創生のまちづくり)”における観光部門の基本計画として位置付けられ、本市における今後10年間の観光振興へ向けた「羅針盤」としての性格も持ち併せております。

計画策定から中間地点を経過した中で、2019(令和元)年12月に発生した新型コロナウイルス感染症の感染拡大により世界の観光・旅行は壊滅的な打撃を受けました。本市においても観光産業、およびその経済波及効果を受ける農林業・商工業も例外ではありません。

このような観光を巡る市場環境の大きな変化を受けて、本計画5年目までの実施状況の中間評価を行うとともに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による社会・経済環境の変化を織り込んで計画の見直しと修正を行い、今後の観光回復へ向けての指針とすることとしました。

結びに、本計画の策定にあたり、ご尽力いただきました観光活性化推進協議会の委員の皆さまをはじめ、関係各所の皆さまや貴重なご意見をいただきました市民の皆さまに心から感謝申し上げますとともに、本計画が掲げる「オール沼田の観光まちづくり」の推進に向けて、引き続き市民の皆さまのご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年3月

沼田市長 星野 稔

沼田市観光基本計画 改訂版

－ with コロナ時代の沼田市の観光－

目 次

I	観光基本計画－改訂版－の位置付けと期間	2
	1 観光基本計画－改訂版－の位置付け	
	2 計画期間	
II	沼田市の観光の現状と課題	4
	1 観光地としての特性と課題	
	2 新型コロナウイルス感染拡大による影響	
	3 観光基本計画の進捗状況	
	4 中期的な観光の見通し	
III	観光振興の理念と目標	12
	1 観光振興の理念と目標	
	2 数値目標	
IV	観光振興の方向性と主要施策	
	施策の方向性	14
	主要施策	16
	1 沼田市の比較優位（強み）に基づく観光レクリエーション魅力の訴求	
	2 地域特性を生かした新たな市場開拓と環境および条件整備	
	3 観光消費促進のための観光レクリエーションの魅力と仕組みづくり	
	4 エリア別の魅力強化	
	5 戦略的な観光マーケティングの展開	
	6 広域連携の推進	
	7 観光ビジネス・観光まちづくり分野における人材育成	
	8 推進体制の整備と計画の進行管理	
V	各施策の実施時期と実施主体	22
VI	参考資料	25

I

観光基本計画―改訂版―の 位置付けと期間

1

観光基本計画―改訂版―の位置付け

人口減少と高齢化が著しい沼田市では、定住人口の増加を図る政策だけでは人口減少を食い止めることは困難であり、観光振興により交流人口の増加を図る政策がますます重要となっています。

そのため、本市では観光を「軸」として中長期的な産業振興と地域活性化のための道筋をつけていくこととしました。その目的は、観光産業の育成と新たなサービス産業の開発、および観光の波及効果としての農林業・商工業の振興、そして、郷土の自然や歴史文化に基づく市民の郷土意識の向上、さらには、観光を通じての二地域居住などの定住人口増加の入口ともなる施策です。

そして、このような観光振興のために、2017（平成29）年度から2026（令和8）年度までの10年を計画期間とした沼田市観光基本計画（以下「前基本計画」という。）を2017（平成29）年3月に策定しました。この計画は沼田市第六次総合計画の“地域経済（ブランド力と交流による元気創生のまちづくり）”における観光部門の基本計画として位置付けられ、本市の中長期的な観光振興へ向けた「羅針盤」としての性格を持っているものです。

以降、本市では前基本計画をもとに鋭意、観光振興政策を実施してきました。しかし、2019（令和元）年12月から始まった新型コロナウイルス感染拡大（以下「コロナ禍」という。）により世界の観光・旅行は壊滅的な打撃を受けました。3年目の2022（令和4）年にはようやく回復の見通しがついてきましたが、訪日観光客の回復はまだ予断を許さない状況にあり、本市の観光産業、およびその経済波及効果を受ける農林業・商工業もこの打撃からの立ち直りに苦闘しているところです。

このような観光を巡る市場環境の大きな変化を受けて、本市では前基本計画の計画5年目までの実施状況の中間評価を行うとともに、コロナ禍による社会・経済環境の変化を織り込んで前基本計画の見直しと修正を行い、今後の観光回復へ向けての指針とするため、沼田市観光基本計画―改訂版―（以下「基本計画」という。）を策定しました。

2 計画期間

計画終了年である 2026（令和 8）年まではコロナ禍の影響が続くものとして、新型コロナウイルス感染症との共存を前提とした計画としました。

開始年				中間評価	計画見直し				終了年
2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
平常年			コロナ禍の期間			新型コロナウイルス感染症との共存を意識する期間			



1

観光地としての特性と課題

(1) 観光地としての特性

●首都圏を後背地に持ち、周辺観光ルートの結節点に立地する恵まれた交通条件

本市は首都圏から新幹線・高速道路ともに2時間程度でアクセスできる交通条件にあり、さらには、群馬県の3分の1を占める利根沼田地域の玄関口として、同地域内の川場田園プラザやみなかみ・片品エリアはもちろん、草津温泉や伊香保温泉、日光・中禅寺湖など、日帰り～宿泊の広域観光の立寄観光地、観光宿泊拠点としての利用も可能な条件にあります。

●自然資源は豊富、歴史・人文資源はやや貧弱

観光資源は、里山景観、河岸段丘のような特異な風景、河川と渓谷・滝などの自然資源が豊富であり、新緑や夏の花々、秋の紅葉、温泉、さらに冬のウインタースポーツまで四季それぞれに楽しむことが特徴です。

加えて、寒暖差のある気候が生み出す野菜や果樹、蜂蜜などの観光農産資源が豊富であり、特にフルーツは関東有数の多彩な種類と数多くの観光農園が立地しています。

歴史・人文資源では沼田城址や迦葉山、集落・街系資源では南郷などの里山の集落景観や田園風景が挙げられます。

●観光拠点は5つのエリアに分かれ、市内に広く分散

本市の観光拠点は、吹割の滝エリア、老神温泉・南郷エリア、白沢エリア、沼田城址・沼田の街並みエリア、玉原高原・迦葉山エリアの5エリアに分かれており、それぞれを結ぶ道路沿線上に、観光農園・道の駅とレストラン・土産品店、温浴施設などの立寄系の観光施設が散在して立地しています。

●市内の二次交通体系が弱いためマイカー客とバスツアー客が中心

市内の広域に散在する観光拠点を回遊するための二次交通機能が弱いために、観光入込客はマイカー利用の日帰り客や野外レクリエーション家族客、そしてバスツアー利用の高齢者団体などが中心となっています。特に首都圏客の玄関口となるJR上毛高原駅からの公共交通機関が弱いために、首都圏からの中高年個人客の誘客に不利となっています。

- 観光産業は施設・園地の老朽化、経営人材の高齢化が進行

本市の観光は自然資源が中心であるため入込客の季節変動が大きく、また積雪状況など、当年の天候変動にも大きな影響を受けます。このため市内の観光産業は小規模・零細な事業者が多く、生産性が低いために施設・設備や農園樹木の老朽化が進行しています。

また経営・運営人材も高齢化が進行しており、特に、小規模事業者が多く、かつ高齢化が進行していることから、IT・DX人材の不足が顕著となっています。

(2) 検討すべき重要な課題

- 消費単価の高い首都圏からの宿泊観光客、保養滞在客の誘致

市内の観光消費額を増やすためには宿泊客の比率を高めること、宿泊消費単価を上げることが重要であり、そのためには、宿泊拠点である老神温泉、迦葉山周辺の民宿、玉原のペンション群および市街地ゾーンのビジネスホテルなどの宿泊魅力向上が必要です。

- 二次交通体系の整備

団体客から個人客への変化がますます進行する中で、「尾瀬から吹割の滝」～「中核宿泊拠点である老神温泉」～「歴史・文化拠点である沼田城址エリア」～「野外レクリエーション拠点である玉原高原」～「首都圏からの玄関口である上毛高原駅」を結び、かつ沿線上の観光農園、観光立寄施設などを周遊できるような二次交通の整備が重要となっています。

- 歴史・文化系資源を市内中心で磨き上げ

歴史・文化系資源がやや弱いため、これらを磨き上げて訴求する演出が必要であり、その中核となるのが沼田城址とその周辺の街並みです。

● 宿泊拠点の滞在魅力づくり

主要な3つの宿泊拠点では、以下の魅力づくりが重要となっています。

1. 老神温泉

- 温泉保養滞在の目的づくり
- 周辺での自然体験の訴求
- 温泉街での散策できる街並みの演出
- 南郷の里山体験、自然体験との連携

2. 玉原高原のペンション群と迦葉山の民宿群

- グリーンシーズンの自然体験プログラムの開発

3. 市街地のビジネスホテル、シティホテルなど

- 沼田城址と周辺の街並みにおける街歩き、食べ歩きの魅力づくり
- 大正ロマンの街並み資源の磨き上げ

● フルーツによる観光地イメージ向上と来訪魅力づくり

関東有数の多彩な観光農園の魅力を訴求して観光地イメージを高めること、また、フルーツの食材への加工、料理への工夫、スイーツとしての商品化を通して、食の魅力向上を図ることが必要です。



2 新型コロナウイルス感染拡大による影響

●入込客数と客層の変化

コロナ禍による入込客数の減少を、ほぼ平常年であった2019（令和元）年と比較した場合、観光庁宿泊旅行統計調査の延べ宿泊者数によると、2020（令和2）年は▲44%、2021（令和3）年は▲47%と、需要は大きく落ち込みました。しかし、日本人延べ宿泊者数については、2021（令和3）年には▲35%まで回復し、2022（令和4）年9月には▲5%まで回復しました。一方、外国人延べ宿泊者数は依然として▲90%の水準にあります。

本市の宿泊客数は2020（令和2）年では▲34%、2021（令和3）年では▲36%と全国平均よりは落ち込みは少なかったのですが、これはもともと訪日観光客や首都圏からの入込客が少なかったためです。

2022（令和4）年1月に行った「沼田市の今後の観光振興に関するアンケート調査」（以下「観光事業者アンケート調査」という。）によると、首都圏からの観光宿泊客が多い旅館やホテルでは減少率は▲40%～50%に達しました。また、客層では、もともと進行していた団体客の減少・個人客化がさらに加速し、バスツアーとして入り込んでいた高齢者団体が激減するとともに、団体・グループの人数規模自体も縮小しました。このため観光農園などの入込客はマイカー家族客が中心となりました。また、宿泊客は県外客（首都圏客）が減少し、全体に商圏が縮小しました。

●観光需要喚起のための金銭的支援策の成果と今後の見通し

観光事業者アンケート調査によると、GOTOトラベル、愛郷ぐんまプロジェクト、愛郷ぐんま×tengooなどの観光支援策の評価は、旅館・ホテルでは57%が効果一大との回答であり、次いで道の駅・ドライブイン・温浴施設などの立寄観光施設での効果が評価されました。しかし、小規模零細事業者の多い観光農園、飲食店などでは限定的な成果に終わりました。

このように金銭的支援策は観光産業存続のために一定の成果を出しましたが、これらの支援策の予算措置は終了が近づいており、今後は期待できない状況にあります。

●観光産業の体力低下、収益力低下

3年にわたったコロナ禍により観光事業者の財務は悪化しつつあり、今後の市場回復へ向けての企業体力の低下、休業から廃業への進行が懸念されます。さらに、燃料費を始めとする諸経費高騰、人手不足により、収益力の低下が著しいことも不安要因となっています。

● 経営、運営におけるIT・DX活用が遅れ

コロナ禍で日帰り観光施設においてもインターネットによる予約管理、入込管理などの動きが進みました。また、遠隔会議、遠隔（無人）接客などの営業、運営の技術革新が観光の分野でも大きく進展しました。しかし、観光産業では小規模零細事業者が多く経営者の高齢化も進行しているため、これらの変化に対応するためのIT・DX活用が遅れています。



3 観光基本計画の進捗状況

前基本計画の数値目標は、人数(日帰り入込、宿泊入込)、消費単価(日帰り、宿泊)、観光客満足度の3点ですが、このうち観光客満足度は中間の2020(令和2)年度にコロナ禍の影響で未測定に終わりました。

- 観光入込数は真田丸イベント以降、減少傾向、コロナ禍でさらに減少

観光入込客総数は2020(令和2)年度までに+10%増の目標を掲げましたが、2017(平成29)年度から減少傾向となり、コロナ禍の影響が始まる前年の2019(令和元)年度には対目標▲13%まで落ち込みました。さらに、2021(令和3)年度にはコロナ禍の影響により日帰り客数は▲44%、宿泊客数は▲36%の減少となりました。

- 消費単価は日帰り客・宿泊客共に伸び悩み傾向

消費単価目標は2020(令和2)年度までに+5%増を見込んでいましたが、日帰り、宿泊共に伸び悩み傾向が続き、2019(令和元)年度で日帰りは対目標▲3%、宿泊は同▲4%となりました。

なお、コロナ禍の影響下となった2020(令和2)～21(令和3)年度は国・群馬県の金銭的支援策の効果もあって、消費単価は一時的に上昇しました。

- 各項目別の実施状況は一部を除いて、おおむね着手、または実施中

前基本計画に挙げられた6つの実施項目(1.戦略マーケティング、2.地域の魅力の向上、3.地域内の連携強化、4.広域連携の強化、5.オール沼田の観光まちづくり、6.推進体制の整備)の進捗状況は、コロナ禍という非常事態により十分ではなかったもののおおむね着手されており、未着手となったものは以下の項目でした。

2.地域の魅力の向上

(1)既存観光資源の魅力向上(老神温泉の遊歩道整備)、(3)良好な景観整備(景観に関するルールづくり)

4.広域連携の強化

(1)広域圏を対象とした商品、滞在プログラムの開発・提案(若山牧水などの文化人の歌碑巡り協働事業)

5.オール沼田の観光まちづくり

(2)住民参画の促進(観光まちづくりの情報発信、誰でも参加できる仕組みづくり、住民の観光意識やおもてなし力の向上)

新型コロナウイルス感染症は発生以来ほぼ3年で収束に向かいつつあり、今後は定期的に小規模な流行を繰り返すようなインフルエンザに類似した疾患として社会に定着すると考えられます。そして人々の旅行への意識や観光への志向は、コロナ禍以前の姿に戻りつつあります。

ただし、ここ3年間の感染不安から生まれた三密を避ける行動形態は今後4～5年は継続すると考えられます。一方、同様に、半強制的に人々が習得を強いられたリモートアクセスによる会合・会議、画面を通じての遠隔接客、テレワークという3つの行動形態は、長期的に社会に定着することが予想されます。

このような社会環境の見通しの中で、2026(令和8)年までの時期は、新型コロナウイルス感染症と共存する市場回復期と見なして、以下のような見通しのもとに施策を行っていきます。

●市場は近距離(県内)ー中距離(北関東・首都圏)ー中・長距離(関西など、アジア諸国)ー長距離(南アジア、北米、欧州)の順に回復する見込みです。従って、まずは中距離の首都圏からの個人客を重視します。この市場は長期的にもメインターゲットとなる客層です。

一方、訪日観光客は2022(令和4)年夏から積極的な誘客活動に舵を切ったものの、完全回復には4～5年を要すると考えられます。このため、当面はターゲットとしていた台湾に絞って、小規模な誘客、知名度アップの広告宣伝に取り掛かります。

●中期的には団体やグループでの三密を避ける旅行行動が継続すると見込まれます。これは具体的には、夫婦・カップル旅行、家族旅行、少人数での友人旅行など、少人数での行動の増加となります。

●旅行意欲の強い人(旅行リピーター)はコロナ禍の収束により旅行を再開しますが、もともと旅行に受動的であった人は旅行再開には時間がかかり、また再開しなくなる人が出ることも考えられます。従って、中期的には“旅慣れた観光客、目の肥えた観光客”が中心となると考えられ、この点では、リピーター優遇策やその中心となる中高年層への訴求が必要となります。

●観光系の団体旅行(修学旅行など)は復活しつつありますが、行き先は自然体験が重視される傾向が生まれており、これは野外活動資源が豊富な本市には有利な材料です。一方、コロナ禍でリモート会議などに変化したMICE市場(会議・会合)はリアルとリモートの複

合開催となり、人数規模は小さくなると考えられます。

なお、観光イベントは当面は三密を避けて開催する傾向が試行錯誤されていますが、2025(令和7)年開催の大阪万博で払拭されると考えられます。

- 三密を避けるために導入されたレストランの席数減、バスの定員減、宴会場の席数減などにより、運輸機関や宿泊施設、観光施設は収容力減少を前提としての経営が必要となります。
- 三密を避ける意味で注目された自然体験・野外活動体験への志向は、今後も学生旅行や子ども連れ家族客などを中心に継続すると考えられます。
- 日帰り観光施設の入場制限とそのために導入された予約システムが定着し、日帰り観光施設を予約して利用する観光行動が増加する可能性があります。
- 市場回復期には旅行リピーターが中心となるため、反動消費として短期的には単価アップが可能となります。従って、魅力向上による高品質化と価値に見合った適切な値付けが有効となります。これは特にインフレ傾向が生じている現状を鑑みても重要な施策となります。
- 新たに生まれた働き方であるテレワークについては、「田舎暮らし希望者の増加・定住人口増」と、「観光旅行の滞在先での遊びと仕事の組み合わせ（ワーケーション）」の2つの可能性が生まれており、観光産業側からの視点では後者がターゲットとなります。
これは新しいタイプの滞在宿泊需要として、旅館・ホテルの滞在客向客室の開発や、街の空き家の有効活用（民泊など）が期待できます。
- ホスピタリティスタイルは、コロナ禍を経てサービス側と消費者側が習熟してきた非対面サービス（画面越しの接客、遠隔注文や精算）とリアルな対面サービスの使い分けとなることが予想されます。そのため、観光産業側にはIT技術の習得とDXの知識が求められます。

1 観光振興の理念と目標

(1) 理念 オール沼田の観光まちづくり

市民・産業・行政が一体となった「観光まちづくり」により、その観光振興の理念を以下の通りとします。

- ① 市民が誇り、市民が輝くまち
- ② 「森林文化都市」として、自然と歴史文化のあるまち
- ③ 観光を通して、市民と来訪者が多様にふれあうまち

(2) 3つの観光振興像

- ① 来訪者が四季折々、何度も訪れたい、豊かな自由時間を過ごしたいと思うまち
— 「四季折々の魅力、美しい景観、多様なアクティビティ、新鮮な食材」 —
- ② 健康保養増進のまち
— 「温泉と森林、新鮮な食材」 —
- ③ 来訪者が市民とさまざまに触れあい・交流し、人の温もりを感じるまち
— 「市民の郷土意識、地域への誇り、地域全体での“おもてなし”」 —

(3) 「連携」と「市民参加」を軸とした推進体制の構築

- ① マーケティング情報の収集と、観光産業・関連産業・市民への情報提供の強化
— 観光統計の充実、市民への観光ニュースレターなどによる告知 —
- ② 広域連携のための組織強化
— 各地域間の連携に加えて、周辺市町村との連携 —
— 1次産業から3次産業までの異業種間、行政の各部署の間での連携構築 —
- ③ 市民参加のための組織づくりと観光人材教育の強化
— 学校教育、まちづくり組織などを通じての観光への理解促進 —
— 観光産業、観光関連産業領域での企業支援 —

2 数値目標

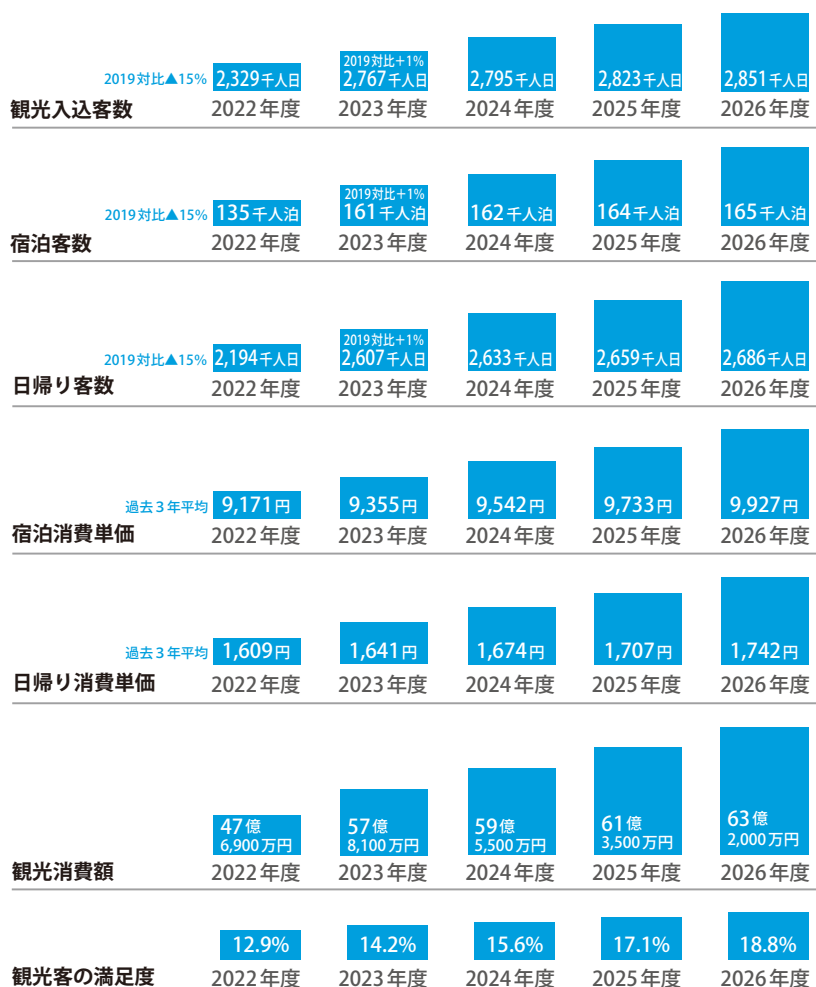
人口減少社会が続く我が国では、観光入込客数を追い求めることは今後ますます困難と
なっています。また、コロナ禍による影響が残る基本計画期間中は入込客数増加の大
きな期待であった訪日観光客数の伸びを大きくは期待できません。このため、前基本計画
に挙げられた継続的に増加する人数目標は現実的ではなくなっています。

そこで、今後の数値目標達成のための方策は、

- ・観光消費単価の向上＝量（人数）より質（消費単価）を重視
- ・宿泊客比率の向上＝日帰り客数より宿泊客（延宿泊客数）を重視
滞在化（平均宿泊数の増加）による延宿泊客数の増加

とすることで、観光消費額を確保することとします。

このため、基本計画期間中の目標数値は以下の通りとします。



※2022年度の数値は推定値です。
※数値については、P.25を参照

コロナ禍による市場動向の変化を踏まえて、前章で定めた要施策を以下のように定めます。

施策の方向性

1 沼田市の比較優位（強み）に基づく観光レクリエーション魅力の訴求
地域間・観光地間の競争が激しさを増す中、本市の比較優位性に根ざした本市ならではの観光レクリエーションの魅力に積極的に訴求していきます。

<沼田市の比較優位>

- ・ 四季の彩りの鮮やかさ、鮮明な移ろい、自然の美しさ
- ・ 豊かな森林と「森林文化都市」
- ・ 関東ではトップクラスの新鮮かつ多彩なフルーツの産地

2 地域特性を生かした新たな市場開拓と環境および条件整備
経済社会環境の変化も踏まえ、本市の地域特性を生かし、新たな市場開拓に努め、そのための環境および条件整備に取り組んでいきます。

<新たな市場開拓につながる沼田市の地域特性>

- ・ 首都圏へアクセス可能な高速交通体系
- ・ 群馬県北の中心都市としての都市機能
- ・ 豊かな自然環境と多彩なアウトドアレクリエーション空間、身近な天然温泉

3 観光消費促進のための観光レクリエーションの魅力と仕組みづくり
観光消費のさまざまな局面に着目し、各種の観光レクリエーションの魅力づくりと仕組みづくりを工夫し、観光消費の拡大に取り組んでいきます。

<観光消費の局面>

- ・ 宿泊消費
- ・ 飲食消費
- ・ 移動消費
- ・ 土産品購入消費
- ・ 観光レクリエーション施設利用、体験観光商品購入消費

観光振興像を実現し、数値目標を達成するための方向性と主

4

エリア別の魅力強化

本市は、吹割の滝エリア、老神温泉・南郷エリア、白沢エリア、沼田城址・沼田の街並みエリア、玉原高原・迦葉山エリアと、観光レクリエーションの魅力をもつエリアが市域に広がり、それぞれ特色あるエリアとなっていることから、各エリアの特色を生かし、それぞれの魅力をさらに強化していきます。

5

戦略的な観光マーケティングの展開

コロナ禍を経て、観光レクリエーション志向の変化もみられる中、戦略的な観光マーケティングを展開し、きめ細かく観光商品開発や誘客プロモーション活動に取り組んでいきます。

またコロナ禍で消失したインバウンド市場については「戻り」を注視しつつ、誘客対応を工夫していきます。

6

広域連携の推進

利根沼田地域の玄関口として、広域観光周遊のニーズも踏まえ、地域間連携の強化を図り、引き続き地域内の観光拠点づくりを推進していきます。

7

観光ビジネス・観光まちづくり分野における人材育成

観光マーケティングの発達やIT・DXの進展により観光ビジネスが高度化し、一方では観光まちづくりの重要性が増す中、関係者・関係団体とも連携し、観光分野での人材育成に取り組んでいきます。

8

推進体制の整備と計画の進行管理

既存の観光協会組織の相互交流・再編・強化に引き続き取り組むとともに、多岐にわたる関係者・関係機関・関係組織と連携し、観光振興体制を整備し、計画の進行管理に努めていきます。

主要施策

1 沼田市の比較優位（強み）に基づく観光レクリエーション魅力の訴求

- ① 四季折々の多彩なアウトドアレクリエーションの場としてのイメージアップ
 - －北関東におけるアウトドアレクリエーション活動のメッカへ
 - 「イメージ訴求と情報発信の仕方－観光マーケティング施策」を工夫
 - －春夏秋冬の多様な体験活動と卓越した活動空間（山岳・高原・水辺など）
 - －活動種別に情報訴求媒体を選択－
- ② 森林体験・森林レクリエーション・森林アドベンチャー魅力づくりの強化
 - －「森林文化都市」にふさわしい「森林に親しみ、森林に憩い、森林を楽しむ、森林に癒やされる『森林ライフ』」の創造－
 - 森林空間&環境整備、体験プログラム整備・商品開発、ガイド・インストラクターの育成など
- ③ 「関東有数のフルーツ観光の名所」としてのブランディングと訴求強化
 - フルーツ関連魅力の多元化とストーリー性（魅力の源泉・理由）の確立
 - －もぎ取り体験～学習～味覚
 - －「沼田の自然風土とフルーツ栽培・育成に関わる適性」の物語化－
 - 宿泊施設・飲食施設におけるフルーツ活用とフルーツ料理の開発
 - フルーツを活用したスイーツ開発&スイーツ開発イベントの実施
- ④ 春夏秋冬それぞれの自然景観スポットの見せ方の工夫
 - ライトアップの検討（石墨の棚田など）



2

地域特性を生かした新たな市場開拓と環境および条件整備

- ① 企業ミーティングおよびワーケーション需要などに対応しうる環境・条件整備
 - 宿泊施設や観光レクリエーション施設におけるビジネス環境（施設・設備）の整備
 - 企業の「ミーティング&インセンティブトラベル」市場の誘致
 - － 地域資源を生かした社会貢献・地域貢献コンテンツの体験プログラム化と商品化－
- ② 長期滞在や多地域居住志向に対応しうる環境・条件整備
 - 滞在志向に対応しうる宿泊施設客室の活用
 - － 宿泊施設の事業再生の促進－
 - － 長期リース客室や長期リース住宅の仕組みづくり（長期連泊利用への対応）－
- ③ SDGs 推進の視点からみた既存観光商品の再評価と新規開発
 - SDGs 推進に寄与する体験観光商品の開発－ SDGs 推進との関連性の訴求
 - － 里山景観や田園景観の修景・保全などとの関連－
 - － 旅行会社との連携による教育旅行市場の戦略的誘致。学校団体への訴求－
 - － 旅行会社との連携による企業の「ミーティング&インセンティブトラベル」市場の誘致－
 - － 企業研修への訴求－



3 観光消費促進のための観光レクリエーションの魅力と仕組みづくり

① 宿泊消費の促進

- 連泊・滞在利用の促進につながる宿泊システムの工夫
- 宿泊消費の誘発につながる商品開発（サービス・料理・設備・観光ガイドなど）

② 飲食消費の促進

- 利用者の経験価値の向上につながる飲食消費の工夫
 - － 商品価値の説明、制作体験・〇〇教室の開催など。特にフルーツや野菜、蜂蜜などの活用－
 - － ビーガンなどの市場への対応の工夫－

③ 移動消費の促進

- 市域内周遊ルートの整備推進
 - － 周遊観光・体験観光利用と連動した交通&観光セット商品の検討－
- オンデマンドバスなどの新たな交通システムの検討

④ 土産品購入消費の促進

- 商品価値の説明、制作体験・〇〇教室の開催などによる土産品購入動機の創出

⑤ 観光レクリエーション施設利用・体験観光商品購入消費の促進

- 各種体験観光商品・着地型観光商品の開発促進と販売システムの構築
 - － （一社）沼田市観光協会の組織強化・財政基盤強化と関連－



4 エリア別の魅力強化

① 吹割の滝エリア

- 沿道景観の修景
- 吹割の滝の冬季の見せ方、利用の安全性の検討

② 老神温泉・南郷エリア

- ハード・ソフト面での温泉情緒の演出
- 温泉街周辺の歩かせ方
- 南郷集落における「湯の里ライフ」（温泉のある「暮らし」体験）の演出

③ 白沢エリア

- 河岸段丘の見せ方、および紹介の仕方の工夫
- 温泉&アウトドア空間のイメージアップ

④ 沼田城址・沼田の街並みエリア

- 沼田城址の活用・レトロな街づくり・個店の紹介の仕方の工夫
- 街歩きの仕掛け方の工夫

⑤ 玉原高原・迦葉山エリア

- ペンション群と民宿の特徴ある魅力づくり、セールスポイントづくりによる活性化
- 玉原高原の自然資源を活用した体験観光商品の開発
- 迦葉山と玉原高原の連携促進



5 戦略的な観光マーケティングの展開

①増加していく個人客対応

- 中高年夫婦や1人旅の客層に対応した商品開発
ー 宿泊プラン・体験観光プラン・飲食プラン・移動サービス商品などー

②近距離圏市場対応

- リピート促進に向けた、春夏秋冬の多様な体験活動と卓越した活動空間（山岳・高原・水辺など）のアピール
- 「森林文化都市」にふさわしい「森林に親しみ、森林に憩い、森林を楽しむ、森林に癒やされる『森林ライフ』」のアピール
- 四季折々の食（食材・フルーツ）の魅力のアピール

③企業の「ミーティング&インセンティブトラベル」市場および教育旅行への対応

- 地域資源を生かした社会貢献・地域貢献コンテンツの体験プログラム化と商品化、旅行会社への働き掛け

④インバウンド客対応

- コロナ禍以前に実績のあった台湾市場への復活働き掛け



6

広域連携の推進

- 広域的な観光連携促進に向けた組織との連携強化
観光宣伝・PR、管内市町村の旅ナカ商品販売に関わるポータルサイトの構築などの検討

7

観光ビジネス・観光まちづくり分野における人材育成

①観光ビジネス分野における経営・IT・DX人材の育成

- 商工会議所など商工団体との連携
－観光ビジネス分野における研修プログラムづくり－

②観光まちづくりを担う人材育成

- 市民観光ガイドの育成促進

8

推進体制の整備と計画の進行管理

- 既存の観光協会組織の相互交流、再編・強化
- 観光基本計画の進行管理（観光活性化推進協議会）



各施策の実施時期と実施主体

施策概要	実施時期		実施主体				
	当面着手	3～5年目途	行政	事業者・団体	事業者	市民・団体	

1

沼田市の比較優位（強み）に基づく観光レクリエーション魅力の訴求						
① 四季折々の多彩なアウトドアレクリエーション地としてのイメージアップ ・「イメージ訴求と情報発信の仕方－観光マーケティング施策」を工夫						
	●	●	●	●		
② 森林体験・森林レクリエーション・森林アドベンチャー魅力づくりの強化 ・森林空間&環境整備、体験プログラム整備・商品開発、ガイド・インストラクターの育成など						
●		●	●	●		
③ 「関東有数のフルーツ観光の名所」としてのブランディングと訴求強化 ・フルーツ関連魅力の多元化とストーリー性（魅力の源泉・理由）の確立						
●		●	●	●		
・宿泊施設・飲食施設におけるフルーツ活用とフルーツ料理の開発						
●			●	●		
・フルーツを活用したスイーツ開発&スイーツ開発イベントの実施						
●			●	●	●	
④ 春夏秋冬それぞれの自然景観スポットの見せ方の工夫 ・ライトアップの検討（石墨の棚田など）						
	●	●	●			●

2

地域特性を生かした新たな市場開拓と環境および条件整備						
① 企業ミーティングおよびワーケーション需要などに対応しうる環境・条件整備 ・宿泊施設や観光レクリエーション施設におけるビジネス環境（施設・設備）の整備						
●					●	
・企業の「ミーティング&インセンティブトラベル」市場の誘致						
	●	●	●	●		
② 長期滞在や多地域居住志向に対応しうる環境・条件整備 ・滞在志向に対応しうる宿泊施設客室の活用						
●			●	●		
③ SDGs 推進の視点からみた既存観光商品の再評価と新規開発 ・SDGs 推進に寄与する体験観光商品の開発－SDGs 推進との関連性の訴求						
	●	●	●	●	●	

3

観光消費促進のための観光レクリエーションの魅力と仕組みづくり						
① 宿泊消費の促進 ・連泊・滞在利用の促進につながる宿泊システムの工夫						
●			●	●		
・宿泊消費の誘発につながる商品開発（サービス・料理・設備・観光ガイドなど）						
●			●	●	●	
② 飲食消費の促進 ・利用者の経験価値の向上につながる飲食消費の工夫						
●			●	●		
③ 移動消費の促進 ・市域内周遊ルートの整備推進						
●		●	●	●		
・オンデマンドバスなどの新たな交通システムの検討						
	●	●	●	●		
④ 土産品購入消費の促進 ・商品価値の説明、制作体験・〇〇教室の開催などによる土産品購入動機の創出						
●			●	●		
⑤ 観光レクリエーション施設利用・体験観光商品購入消費の促進 ・各種体験観光商品・着地型観光商品の開発促進と販売システムの構築						
	●	●	●	●		

注) 実施時期は 2022 (令和 4) 年度基準

注) 実施主体は、行政：主として市 事業者団体：観光協会・商工会議所・商工会・JAなど
 事業者：観光商工事業者・農林業者 市民・団体：一般市民・市民団体

施策概要	実施時期		実施主体			
	当面着手	3～5年目途	行政	事業者・団体	事業者	市民・団体

4

エリア別の魅力強化						
① 吹割の滝エリア						
・ 沿道景観の修景	●		●	●	●	
・ 吹割の滝の冬季の見せ方、利用の安全性の検討	●		●	●		
② 老神温泉・南郷エリア						
・ ハード・ソフト面での温泉情緒の演出	●		●	●	●	
・ 温泉街周辺の歩かせ方			●	●	●	●
・ 南郷集落における「湯の里ライフ」(温泉のある「暮らし」体験)の演出		●	●	●	●	●
③ 白沢エリア						
・ 河岸段丘の見せ方、および紹介の仕方の工夫	●		●	●		
・ 温泉&アウトドア空間のイメージアップ	●		●	●		
④ 沼田城址・沼田の街並みエリア						
・ 沼田城址の活用・レトロな街づくり・個店の紹介の仕方の工夫		●	●	●	●	●
・ 街歩きの仕事掛け方の工夫		●	●	●	●	●
⑤ 玉原高原・迦葉山エリア						
・ ペンション群と民宿の特徴ある魅力づくり、セールスポイントづくりによる活性化	●			●	●	
・ 玉原高原の自然資源を活用した体験観光商品の開発	●			●	●	
・ 迦葉山と玉原高原の連携促進		●		●	●	

5

戦略的な観光マーケティングの展開						
① 増加していく個人客対応						
・ 中高年夫婦客や1人旅の客層に対応した商品開発	●		●	●	●	
② 近距離圏市場対応						
・ リピート促進に向けた、春夏秋冬の多様な体験活動と卓越した活動空間(山岳・高原・水辺など)のアピール		●	●	●	●	
・ 「森林文化都市」にふさわしい「森林に親しみ、森林に憩い、森林を楽しむ、森林に癒やされる『森林ライフ』」のアピール		●	●	●	●	
・ 四季折々の食(食材・フルーツ)の魅力のアピール	●		●	●	●	
③ 企業の「ミーティング&インセンティブトラベル」市場および教育旅行への対応						
・ 地域資源を生かした社会貢献・地域貢献コンテンツの体験プログラム化と商品化、旅行会社への働き掛け	●		●	●	●	●
④ インバウンド対応						
・ コロナ禍以前に実績のあった台湾市場への復活働き掛け	●		●	●	●	

6

広域連携の推進						
・ 広域的な観光連携促進に向けた組織との連携強化	●		●	●		

施策概要	実施時期		実施主体			
	当面着手	3～5年目途	行政	事業者・団体	事業者	市民・団体

7

観光ビジネス・観光まちづくり分野における人材育成						
① 観光ビジネス分野における経営・IT・DX人材の育成						
・ 商工会議所など商工団体との連携	●		●	●		
② 観光まちづくりを担う人材育成						
・ 市民観光ガイドの育成促進	●		●	●		●

8

推進体制の整備と計画の進行管理						
・ 既存の観光協会組織の相互交流、再編・強化	●		●	●		
・ 観光基本計画の進行管理（観光活性化推進協議会）	●		●			



1. 数値目標設定方式

(1) 宿泊客数

観光庁宿泊旅行統計調査によると、2022（令和4）年の群馬県の延べ宿泊者数は、コロナ禍前の2019（令和元）年との対比で見ると▲19%、うち日本人客は▲13%でした。また、同統計による2022（令和4）年10月～23（令和5）年1月の全国の日本人延べ宿泊客数（速報値）は、2019（令和元）年を上回る回復傾向（10月：+6%、11月：+4%、12月：+8%）を示しています。これは全国旅行支援などの政策による効果もあるものの、過去3年間の旅行制約に対する反動増によるものと考えられます。一方、訪日観光客は未だ回復途上にありますが、これも2023（令和5）年からの入国制限緩和により増加が見込まれます。よって、本市の宿泊客数は以下の目標設定とします。

- 2022（令和4）年度
本市は群馬県全体に比べて外国人客比率が低いことから、群馬県合計の2019（令和元）年実績対比▲19%に対して▲15%とします。
- 2023（令和5）年度は、過去3年間の旅行制約に対する反動増を見込んで、2019（令和元）年対比で+1%の増加を見込みます。以降は、滞在保養客の増加や野外レクリエーション客増加などによる稼働率向上を見込んで、毎年1%の伸率とします。

(2) 日帰り客数

- 2022（令和4）年度は、宿泊客数と同様に2019（令和元）年度対比で▲15%、2023（令和5）年度も宿泊客数と同様に2019（令和元）年対比で+1%とします。以降は、毎年1%の伸率とします。

(3) 消費単価

- 2022（令和4）年度は、2019（令和元）年度～21（令和3）年度の平均値とします。以降、宿泊、日帰りともに毎年2%の上昇を見込みます。これは観光産業の品質向上努力に加えて、現在のインフレ傾向が継続することが見込まれるためです。

●各年度の数値目標（人数と単価）

	基準値 2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	1* 2022年度 (令和4年度)	2 2023年度 (令和5年度)	3 2024年度 (令和6年度)	4 2025年度 (令和7年度)	5 2026年度 (令和8年度)
観光入込客数 (千人日)	2,740	1,678	1,547	2,329 2019対比-15%	2,767 2019対比+1%	2,795 対前年+1%	2,823 同左	2,851 同左
宿泊客数 (千人泊)	159	105	101	135 2019対比-15%	161 2019対比+1%	162 対前年+1%	164 同左	165 同左
日帰り客数 (千人日)	2,581	1,573	1,446	2,194 2019対比-15%	2,607 2019対比+1%	2,633 対前年+1%	2,659 同左	2,686 同左
宿泊消費単価 (円/人泊)	9,104	9,150	9,260	9,171 過去3年間平均	9,355 対前年+2%	9,542 同左	9,733 同左	9,927 同左
日帰り消費単価 (円/人日)	1,597	1,660	1,570	1,609 過去3年間平均	1,641 対前年+2%	1,674 同左	1,707 同左	1,742 同左
観光消費額(百万円) (対前年伸率)	5,570	3,572	3,205	4,769	5,781 121%	5,955 103%	6,135 103%	6,320 103%
【内、宿泊消費】	1,448	961	935	1,240	1,502	1,548	1,594	1,643
【内、日帰り消費】	4,122	2,611	2,270	3,530	4,278	4,407	4,541	4,678

※ 2022（令和4）年度の数値は推定値である。

※表の数値は、表記の単位未満の位で四捨五入しているため、総数と内訳の合計は必ずしも一致しない。

満足度調査

- 満足度調査はコロナ禍による影響もあって継続実施ができなかったため、2017（平成29）年から継続実施している Web アンケート調査の本市への来訪意向（再来訪意向）に指標を変更し、「是非、訪れたい」の比率から過去4年間の平均値を算出し、その値を基準に毎年 1.1 倍の上昇を見込みます。

		1	2	3	4	5	
	過去4回 平均	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)	伸率/年
是非、訪れたい	11.7%	12.9%	14.2%	15.6%	17.1%	18.8%	1.1

2. 市町村別観光農園数

順位	都道府県	市区町村	事業種別
			観光農園
1	山梨県	南アルプス市	163
2	山梨県	甲州市	150
3	山梨県	笛吹市	136
4	群馬県	沼田市	101
5	長野県	松川町	86
~~~~~			
12	茨城県	常陸太田市	47

※ 5～12 位の間に関東地方の都道府県なし。

出典：2020 年農林業センサス報告書 第 1 巻 都道府県別統計書（全 47 冊）

2 農業経営体（総数）28 農業生産関連事業を行っている経営体の事業種別経営体数



## 沼田の主な観光資源

自然	戸神山	形のいい三角形が特徴で、頂上から360°のパノラマが楽しめる眺望自慢の山です。
	三峰山	テーブル状の珍しい形が目を引き山で、中腹の河内神社はかつて沼田城主の信仰が厚かったと言われていいます。
	子持山	太古に活発に活動した古火山で火山地形の名残が観察できる天然の奇勝です。
	迦葉山	巨大な天狗面で有名な弥勒寺の後ろにそびえる山で、頂上は南側の眺望が開け、戸神山や三峰山、子持山などを一望できます。
	鹿俣山	玉原高原の東に位置する山で、山頂からの眺望も良好です。
	尼ヶ禿山	「小尾瀬」と呼ばれる玉原湿原の西にそびえる山で、ブナ林を抜ける遊歩道も整備されており、家族連れで楽しめる山です。
	雨乞山	よく整備された登山道は、勾配も緩やかで家族でハイキングを楽しむには最適な山です。
	吹割の滝	利根町追貝西方の片品川本流にあり、左岸側から流入する浮川(たにがわ) 栗原川の間に位置しています。吹割瀑では、小沢凝灰岩、吹割溶結凝灰岩を基盤として鱗飛の滝、吹割瀑などの滝が分布しており、河床縦断形で大きな遷急(せんきゅう)点を形成しています。栗原川合流点より吹割瀑までの間は深い峡谷(V字谷)となり、吹割瀑より浮島付近までは広い河床を形成しており、「千畳敷(せんじょうじき)」と呼ばれ、河床には甌穴(おうけつ)が数多く見られます。吹割瀑は河床をし字に削る形で流れ落ちる全国でも稀少な滝であり、「東洋のナイアガラ」と呼ばれています。滝周辺には屏風岩、般若岩、獅子岩などと呼ばれる様々な天然の造形があり、滝と一体となりまたとない自然美を構成しています。
	河岸段丘	片品川沿いに利根川と合流する前の下流域で段差が深くはっきりとした河岸段丘が発達していて、地理の教科書に掲載されるほど有名です。市街地は河岸段丘の上に発達し、玄関口であるJR上越線沼田駅との高低差は約70メートルもあります。この河岸段丘は、椎坂峠や雨乞山、子持山などの高い場所からはっきりと確認することができます。
	玉原湿原	玉原湿原は、武尊山の山麓に広がる日本海型ブナ林に囲まれている湿原です。植生の珍しさから尾瀬にたとえられ「小尾瀬(こおぜ)」と呼ばれており、ミズバショウを始め、四季を彩る草花を見ることができます。
	ブナ平	標高約1,300mに位置するブナ林で、春の新緑、秋の紅葉だけでなく四季を通じた魅力が人々を引きつけます。
	御殿桜	沼田公園内にあり、沼田城址のシンボリックな樹と言えます。推定樹齢400年といわれ、根は古皇の石垣をしっかりと抱き、春ごとに寂寥(せきりょう)の色をたたえた花を開いて興亡の歴史を語り続けています。
	発知のヒガンザクラ	樹齢約500年と推定され、樹高は15メートル、枝張り東西に17メートル、南北に22メートルほどあって、県の天然記念物に指定されています。発知地区を見渡す高台にあり、苗代を作るころに開花することから「発知の苗代桜」とも呼ばれ親しまれています。
	上発知のシダレザクラ	上発知地区の田の塚上に立つシダレザクラ。シダレザクラは極めて美しい樹形であり、残雪で白い玉原の山々とのコントラストが素晴らしく、そして根元の赤い前掛けをしたお地蔵様がワンポイントになっており、毎年多くのカメラマンが訪れています。
	石割桜	大石を割いて伸びている大きな根は見事で、白沢地区の歌『白沢よいとこ』にも登場し、住民に親しまれているカスミザクラ。『見る人のためにはあらで おくやまにおのがまことを 咲くさくらかな 読人不知』の添え歌があります。
山妻有のサクラ	山妻有(やまつまり)大明神社殿脇にある巨木で、伝承によると、正平年間(1346～1370)に新田義宗の妻子が当地に滞在した形見の桜と言われています。中心部は空洞化しているものの、本市では特筆すべき桜の古樹で、市内では最大級のエドヒガン。毎年春には近隣のソメイヨシノに先駆けて開花します。	
薄根のオオクワ	畑地の中にあるヤマグワで、ヤマグワでは日本一の巨樹といわれています。根元周囲5.67メートル、樹高13.65メートルで、樹齢は推定1,500年です。真田伊賀守が幕府に領地を没収された後、貞享3(1686)年に前橋藩の家老高須隼人が石墨村を再検地した際、この大クワを検地の標木にしたといわれています。幹が太く容姿端正なことで、「養蚕の神」として永くたたえられてきました。現在、世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」などを含んだ「ぐんま絹遺産」に登録されています。	
自然(体験)	石墨棚田	群馬県で唯一、「つなぐ棚田遺産(旧 棚田百選)」に選定された「石墨棚田」では、傾斜角1/20の美しい棚田を活用した棚田オーナー制度などの田舎体験や、6月下旬から7月上旬にかけて開催されるホテルの鑑賞会、秋から冬にかけて行われる棚田イルミネーションなど、人と自然が作り上げる田舎の眺望を楽しむことができます。
温泉	老神温泉	日光男体山の神との戦いで傷を負った赤城山の神が発見し、その傷を癒したとされる温泉で、片品渓谷沿いに老舗の旅館やホテルが軒を連ねています。
	白沢高原温泉「望郷の湯」	赤城山と赤城高原を正面に望む景勝地に佇む、道の駅白沢内にある日帰り温泉施設「望郷の湯」。露天風呂からの眺望はまさに絶景。片品川により形成された国内有数の規模を誇る河岸段丘が遙か眼下に、そして正面にはどっしり構える赤城山が広がっています。
	南郷温泉「しゃくなげの湯」	良質な温泉が自噴し、源泉100%掛け流しが自慢のしゃくなげの湯。林業が盛んであるため、施設全体に地元の檜や杉がふんだんに使われており、ぬくもりが感じられます。檜材を贅沢に使った「檜風呂」、吹割の滝をイメージした「岩風呂」でその良質な温泉を楽しめます。

祭り	沼田まつり	須賀、榛名両神社神輿の渡御をはじめとして、町みこしの共演、山車(まんど)行列、千人おどり、子供みこし行列のほか、大天狗面をみこしに仕立て約300人の女性だけで担ぐ「天狗みこし」などの行事が行われ、8月3日～5日の3日間、20万人以上の人出で賑わいます。
	柳波まつり	童謡作家「林柳波」にちなんだまつりで、歩行者天国になった本町通りで童謡コンサートなどが開かれます。
	白沢ふるさとまつり	白沢地域の7地区から集まった神輿の競演や、地元特産品の飲食サービスも行われます。
	とねふるさと風のまつり	伝統的な祭りを中心に、模擬店舗が多数出店する交流イベント。夜には約2,800発の花火が打ち上げられます。
	老神温泉大蛇まつり	大きな蛇の形をした神輿を担いだ男女が、温泉街を練り歩きます。
人物	久米民之助	沼田藩倉内(現東倉内町)の武家屋敷に生まれ、工部大学(現東京大学)卒業。実業家として山陽線をはじめ、台湾・朝鮮など国内外の鉄道事業に携わるとともに、故郷沼田地域の開発にも力を入れました。当時は荒地だった沼田城址を私財と熱意をもって整備し沼田公園としました。
	林柳波	童謡作詞家。明治薬科大学図書館長。材木町に生まれ、明治薬学校(現明治薬科大学)時代から詩歌の世界に情熱を燃やしました。鈴木三重吉の『赤い鳥』運動に共鳴し、『おうま』『うみ』『ほたるこい』『たなばた』ほか千編以上の童謡を作詞しました。
	おのちゅうこう	本名は小野忠孝(ただよし)。詩人・童話作家。白沢村高平に生まれ、大正末期から詩作と児童文学を志し、河井醉茗(すいめい)に師事、処女詩集『牧歌的風景』を出版。主な著作は童話『氏神さま』『風は思い出をささやいた』『風にゆれる雑草』など。椎坂峠に白筆の『望郷』の詩碑が建てられています。
	生方たつへ	歌人(雅号：たつ系)。三重県に生まれ、生方誠(せい) (のちの沼田町長)と結婚後、沼田に移住。歌集『山花集』を出版後、短歌の領域を広げた『白い風の中で』で読売文学賞受賞し、婦人公論・毎日新聞歌壇などの選者を務めました。『野分けのやうに』では最も権威のある「沼空賞」(ちょうくうしょう)を受賞。市内にある生方記念文庫では、生方たつ系の著書を中心に詩歌関係書を多く集めています。
	新井耕吉郎	農業技師。利根郡東村園原(現利根町園原)に生まれ、日本統治下の台湾で紅茶の栽培に尽力しました。台湾紅茶産業の発展に貢献した功績を讃え、台湾では「台湾紅茶の父」と呼ばれています。
歴史	真田氏	後北条氏が豊臣秀吉により滅亡した後、真田信之が初代沼田城主となり、2代信吉、3代熊之助、4代信政と続き、5代信利が閉門・改易となるまで真田氏は91年間沼田を統治しました。信之は信吉に沼田城を譲り、上田城に移った後に松代に移封となり、その後明治維新まで真田家は存続しました。
	大蓮院(小松姫)	大蓮院は本多忠勝の娘で名は小松姫といい、家康が養女にして、天正17(1589)年に真田信幸(之)に嫁がせました。天正18(1590)年7月に信幸(之)が沼田城主となり、慶長5(1600)年の関ヶ原の戦には徳川方につきました。西軍につくことになった父の昌幸、弟の幸村が佐野犬伏から沼田に帰る途次に沼田城を訪れた際、城を守り入城を拒んだことで女丈夫とつたわれました。元和6(1620)年に病み、2月に療養のため江戸から草津に来る途中の同月24日武蔵国鴻巣で死亡しました。48歳でした。同所で火葬して分骨し、同所の勝願寺・沼田の正覚寺・上田の芳泉寺にそれぞれ葬られました。
	沼田城址	沼田城は、天文元(1532)年に三浦系沼田氏12代万鬼斎顕泰が約3年の歳月を費やして築きました。当時は蔵内(倉内)城と称し、沼田市街地発祥のかなめで、当市の歴史の起点でもあります。築城して48年後の天正8(1580)年に、武田勝頼の武将真田昌幸が入城し、城の規模を広げました。天正18(1590)年に昌幸の嫡子信幸(之)が沼田領二万七千石の初代城主となり、その後五代91年の間真田氏の居城となります。また、慶長年間には五層の天守閣を建造し、城を核とした町割がされるなど、城下町としての形態が完成しました。天和元(1681)年に真田氏5代藩主信利が江戸幕府に領地を没収され、翌2年1月に沼田城は、幕府の命により完全に破却され、その後の天守閣の再建はされませんでした。その後、本多氏が旧沼田領177カ村のうち46カ村・飛地領合わせ四万石の藩主として入封し、幕府の交付金で城を再興し三の丸に屋形を建てました。次いで、黒田氏2代、土岐氏12代の居館となりましたが、明治になって版籍奉還し、屋形も取り壊されました。時を経て本丸・二の丸跡が、現在の沼田公園に変貌しました。
	城鐘	寛永11(1634)年に沼田藩2代藩主真田信吉が沼田で鑄造させ、沼田城三の丸の楼に掛けて時報に用いられました。天和元(1681)年に真田氏が改易となり、城破却の際、堀に埋められるところを平等寺が譲り受け、その後、明治31(1898)年頃から沼田町の時鐘となりました。「この鐘の首は領内領民を安らかにし、領主の長久を祈るもの…」という意味の鑄造銘と平等寺の梵鐘となった由緒の補刻もあり、美術的にも優れています。
	旧生方家住宅	生方家は、沼田藩御用達の薬種商で、始祖は沼田近在の屋形原出身であったといわれていますが、沼田に定住し薬種商を営むようになった時期は明らかになっていません。旧生方家住宅は妻入・板葺の町家でしたが、その様式・技法から見て17世紀末頃に建築されたと考えられ、東日本における古き町家造りの代表的な遺構です。江戸末期の元治元(1864)年の大修理をはじめとして数回の改築・増築を経て現代に至っています。
旧土岐家住宅洋館	127年間にわたり沼田藩主を務めた土岐家の子孫が東京都内に新築した洋館で、平成2(1990)年に移築されました。平成9(1997)年に国の登録有形文化財(建造物)に指定されています。	
旧沼田貯蓄銀行	沼田貯蓄銀行は、明治31(1898)年11月7日に開業され、その後、沼田商業銀行、利根銀行、群馬大同銀行と改称されました。この建物は、明治・大正期の擬洋風建造物で、市内においてただ1棟だけ残る利根・沼田の金融史を物語る貴重な文化財です。	
旧日本基督教団沼田教会記念会堂	旧日本基督教団沼田教会記念会堂は、大正3(1914)年に生糸貿易を行った星野家の星野光多(牧師)・星野あい(津田塾大学長・沼田市名誉市民)らによって建てられ、平成10(1998)年4月21日に登録有形文化財として文化庁の登録原簿に登録されました。	
沼田市歴史資料館	原始・古代から真田の治世、江戸時代を経て近現代までの各時代の歴史資料や河岸段丘の映像、大型ジオラマ、真田時代の城下町床マップなどを展示しています。	
南郷の曲屋(旧鈴木家住宅)	主屋は、東北地方の民家でよく見られる曲屋(まがりや)形式で、県内では珍しいかやぶき屋根の曲屋形式の民家です。天明5(1785)年に竣工したと推測されます。平成16(2004)年3月8日に、市の重要文化財として指定されました。	

食べ物	りんご	市内に100軒以上のりんご園があり、8月下旬から11月まで、さまざまな品種のりんごが楽しめます。
	ぶどう	市内に40軒以上のぶどう園があり、8月下旬から10月中旬まで、さまざまな品種のぶどうが楽しめます。
	味噌まんじゅう	市内はもちろん、群馬県内でも古くから食され愛されている食べ物で、餡の入っていない薄い素まんじゅうを竹串に差し、砂糖や水飴などで甘くした濃厚な味噌だれをつけて火に炙ったものです。焼かれた味噌の香ばしいにおいが食欲を呼びます。群馬県南部では焼きまんじゅうとも呼ばれています。
	とんかつ	昔から養豚業が盛んだった白沢地区を中心に、国道120号線沿いにとんかつを提供するお店が増えました。
	えだまメンチ	沼田市の特産「枝豆」がたっぷりに入ったメンチカツです。おいしくてヘルシーな“えだまメンチ”、地元の利根実業高等学校の生徒が考案・開発しました。
	だんご汁	小麦粉を練って丸めてちぎっただんごを地元産の野菜と一緒に煮込んだ鍋料理であり、市内では古くから食べられてきた郷土料理です。



## 沼田市観光活性化推進協議会委員名簿

No.	役職	氏名	団体等名	職名
1	会長	小野 幸広	(一社) 沼田市観光協会	会長
2	副会長	大野 正人	観光リサーチ&プランニング	
3	委員	大竹 秀子		元教育委員
4	//	鈴木 圭子		元市議会議員
5	//	細内 律子	トランス・タイム	
6	//	小尾 孝男	利根町観光協会	会長
7	//	三田村 和孝	東急リゾート&ステイ(株)	玉原東急リゾート総支配人
8	//	大園 博史	(株)白沢振興公社	代表取締役
9	//	金井塚 清志	(株)利根町振興公社	代表取締役
10	//	唐澤 伸哉	東日本旅客鉄道(株)	水上駅長
11	//	阿部 正治	関越交通(株)	常務取締役
12	//	千明 公男	沼田エフエム放送(株)	専務取締役局長
13	//	中村 一喜	沼田商工会議所	専務理事
14	//	宇敷 喜与次	沼田市東部商工会	事務局長
15	//	阿部 健	沼田市物産振興会	会長
16	//	星野 隆	利根沼田農業協同組合	沼田支店長
17	//	小野里 隆行	利根沼田振興局 利根沼田行政県税事務所	振興局長兼所長
18	//	山口 正	沼田市	経済部長
19	//	羽田 耕治	横浜商科大学	名誉教授

## VI

### 参考資料

### 沼田市観光活性化推進協議会

第1回協議会	2022(令和4)年 10月6日	テラス沼田 多目的スペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>沼田市観光基本計画改訂版(案)について</li> <li>今後のスケジュールについて</li> </ul>
第2回協議会	2023(令和5)年 1月12日	テラス沼田 会議室 601	<ul style="list-style-type: none"> <li>沼田市観光基本計画改訂版(案)について</li> <li>パブリックコメントの実施について</li> </ul>





---

## 沼田市観光基本計画 改訂版

— with コロナ時代の沼田市の観光 —

編集 沼田市経済部観光交流課  
〒 378-8501 群馬県沼田市下之町 888  
TEL.0278-23-2111 (代表)  
URL. <https://www.city.numata.gunma.jp/>

---

